

# 秀明改

編集 アンチカルト編集室  
発行所 家族を新興宗教から守ろう  
fujiyahoko@excite.co.jp

## リセット

秀明会OBが秀めごと作っているため、明信者のページもご覧下さい



神慈秀明会 会長・小山弘子

秀明会がなぜこのようなカルト教団になったのか、その源泉について説明させて頂きます。

秀明会の経営者は、信者を奴隷のように取り扱っており、信者は小山家のために永久に献金を続け、無償の肉体労働を続けるものと考えています。そして、これを当然と考えています。これは、秀明会発足当ても今も変わらない秀明会経営者の経営理念です。

普通の人間であれば、こんなことは考えません。「秀明会の経営者は最初から詐欺師だっただけなのだ」と結論づけてしまったのではここで議論が終わってしまいます。感情的な一般論を振りかざすと論理的な客観的分析ができなくなります。私はこれから、秀明会経営者である小山家の人間たちが、なぜこのような人を人とも思わぬ

傲慢な人間になってしまったのか、についての客観的な経緯を書かせて頂きます。

実は、秀明会の初代経営者である小山美秀子の生まれた家は、戦前、男爵で大金持ちだったのです（小山家ではなく、生家のほうです）。

彼女は小さい頃から、自分の周りの人間はすべて自分の奉仕人であり、自分の家来にすぎないという無言の教育を親から受けてきたのです。確かに、戦前の華族制度の下ではこの考え方は正しかったのでしよう。

しかし、敗戦により憲法が改正され、こういつた不平等な制度が日本から駆逐されたにもかかわらず、小山家のこの女あるじは、殿様根性を捨てきれず、一生、殿様でい続けました。なぜか？ 彼女は終戦より前に、宗教団体のトップになり（当

時は被包括法人でしたが、子会社の社長といった立場です）、世間の法律の及ばない自分だけの団体、自分が法律の団体の長になっていたからです。世間の法律が及ばないので、敗戦で法律がどのように変わろうが、彼女にとっては関係なし。彼女は信者とな前を名を変えた奉公人を秀明会という名前のミニ国家の奴隷として（家畜といったほうが適切）支配し続けたのでした。

# 信者は奴隷 召使い

だから彼女は秀明会の「御用」が原因で信者が離婚しようが、借金地獄になろうが、家庭崩壊しようが平気だったのです。彼女にとって信者は、自分と対等な人間ではなく、奉公人、召使、奴隷にすぎないので、奴隷貿易をしていた頃のヨーロッパ人は奴隷の家が崩壊しても、なんとも思わなかったでしょう。というか、奴隷を家畜と考え

ていたんですよ。小山家の女あるじも同じです。彼女は秀明会の奉仕者が病気になる、動けなくなると、浄化室という監禁部屋に閉じ込めていました。しかし、自分が怪我をすると、こっそり病院に行っていました。これは、彼女が信者を奴隷と考えていた何よりの証拠です。

『し・か・し』、なのです。その一方で、小山家の人間が信者の幸せを真剣に「祈っていた」のも、また事実なのです。

「明主様、どうか、秀明会の信者一同が御守護頂きますよう伏しお願い申し上げます。」と本気で祈っているのです（別に私は小山家の行為を肯定しているわけではありません。最後まで、読んでください）。

信者を小山家の犠牲にしているのに（離婚、借金地獄、家事放棄、学業放棄、仕事放棄）、なぜ、信者の幸福を真剣に祈れるのか？ これって、第三者から見るとすごく矛盾してまずいよね。

実は、小山家の人たちの祈りは、『祈るといふ行為それ自体』に意味があるのであり、それによって実際に信者が幸福になるという結果の部分（捨象（しやしよ））は、捨てられています。分かりやすく言えば、小山家の人たちは、自分の祈っている行為に酔っているだけなのです。

「私はこんなに人の幸福を祈っているんです。この私の祈る姿は崇高で美しいんです。だから、私は正しい人間なんです。だから、私の今までの人生は正しかったんです。私は正しい、正しい、正しい、正しい……」

小山美秀子、莊吉、弘子の三者の礼拝、祈りを現場で見たことのある人に対して、「小山家は信者を奴隷と考えている」と、いくら訴えても、「いや、そんなことはない。会主様、会長先生は信者の幸せだけを考えていてくださる」と反論してくるでしょう。ある意味この反論は正しいのです。

確かに、彼女らは真剣に祈っているのです。ただ、「祈り」の意味が違うのです。「祈るといふ行為」に意味があるのであり、現実に信者が幸福になるかどうかは、絶対に触れない、考えないのです。

他者の幸福を真剣に祈りながら、その人間の財布の中身をすべ奪い取る。このコメディのような行為こそが、小山家の祈りなのです。ですから、祈りという言葉の意味が小山家と世間では違うのです。

そして、信者は自分の為に存在する奉公人だから小山家にすべてを差し出して当然。そして、小山家にすべてを差し出せばお徳を積むことができ、罪穢れが消え去り、霊界で救われる。明主様は現界にもういないのだから、小山家だけが明主様の代理。明主様は神様なのだから、その代理である小山家にすべてを差し出すことだけが唯一のお徳を積む方法。だから、有り金全部を献金しなさい。

そして、貧乏でぼろぼろになった信者を見て、この人は救われたと本気で考えていたのです。本気で……